



平成28年度
「福知山公立大学開学記念連続講演会」報告書

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会
地域のための福知山公立大学に期待するもの～福知山公立大学を使いこなすために～
報 告 書

目 次

1. はじめに	2
2. 開学記念連続講演会の開催趣旨と概要について	3
3. 開学記念連続講演会	
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 福知山市 「地方創生時代における地方公立大学の役割」	4
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 与謝野町 「デザインマネジメントによるまちづくり ～みえるまちをつくる～」	14
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 宮津市 「神山発！日本の田舎をステキに変える ～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」	23
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 伊根町 「東北が取り組んでいる新しい農林水産業 ～「東の食の会」の事例紹介～」	32
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 綾部市 「都市農村交流から移住・定住へ」	42
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 舞鶴市 「クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性」	51
◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 京丹後市	61
「地域資源は足元に埋まっている」	
3. アンケート集計結果	70

はじめに

本学は「市民の大学、地域のための大学、世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げて、平成28年4月に開学しました。とりわけ、地域の皆様からのご支援・ご協力により、本学の運営は成り立っており、「地域のための大学」は本学が地域の皆様に果たすべき最も重要な社会的責任であります。

この理念を広く地域社会に周知し、本学が北近畿地域全体の社会的資源として有効に機能するために、「福知山公立大学開学記念連続講演会」を開催しました。

今年度は京都府北部5市2町を会場に実施し、講演会では北近畿の活性化、地方創生の実現をメインテーマに据え、それぞれの地域で関心の高い個別テーマを設定し、著名な外部講師を招聘して基調講演を行いました。また、基調講演を受け、外部講師、本学教員、有識者による鼎談（ていだん）やパネルディスカッションを実施し、闊達な意見交換をしていただくことにより、公立大学と市民生活との関係を具体的に理解していただく機会を設けました。

全7回の講演会で900人を超える来場者にお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

このたびの「福知山公立大学開学記念連続講演会」におきましては、関係各位のご協力のおかげで成功を収めることができましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。今回の講演会をきっかけに、大学と地域の皆様との交流が活発になることを切望するとともに、本学も地域の大学として貢献いたしていく所存です。



福知山公立大学北近畿地域連携センター長
富野 晉一郎

【趣旨】

本学の地域連携事業の一環として、住民の生涯学習機会の充実をはかるとともに、圏域住民の本学への関心を高めることを目的に開学記念連続講演会を開催しました。平成28年度は、京都府北部5市2町の各自治体と連携し、全7回実施しました。各講演会の日程等については下記の表のとおりです。

本講演会では、福知山公立大学の基本理念である「地域のための大学」が地域社会に広く周知され、大学が北近畿地域全体の社会的資源として有効に機能するために、地域課題に即した課題の提起と解決に向けて求められる論点を幅広く論じることを通じて、地域における身近な大学の役割について共通の認識を形成することを目指しました。

【各講演会の日程・場所・テーマ・講師・参加者数】

	日程	場所	基調講演テーマ	講師	参加者数
第1回	9月10日(土)	福知山市	地方創生時代における地方公立大学の役割	片山 義博 氏 (慶應義塾大学教授)	200人
第2回	10月15日(土)	与謝野町	デザインマネジメントによるまちづくり～みえるまちをつくる～	田子 學 氏 (株)エムテド代表取締役)	150人
第3回	10月22日(土)	宮津市	神山発！日本の田舎をステキに変える～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～	大南 信也 氏 (NPO 法人グリーンバレー理事長)	80人
第4回	11月 5日(土)	伊根町	東北が取り組んでいる新しい農林水産業～「東の食の会」の事例紹介～	高橋 大就 氏 ((一社)「東の食の会」事務局代表)	60人
第5回	11月 26日(土)	綾部市	都市農村交流から移住・定住へ	小田切 徳美 氏 (明治大学教授)	150人
第6回	12月 11日(日)	舞鶴市	クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性	山口 直彦 氏 (商船三井客船株代表取締役社長)	150人
第7回	12月 25日(日)	京丹後市	地域資源は足元に埋まっている	高野 誠鮮 氏 (元羽咋職員)	150人

「地域のための福知山公立大学に期待するもの～福知山公立大学を使いこなすために～」

第1回 福知山公立大学 開学記念連続講演会in福知山

講演内容

・基調講演

講演テーマ

「地方創生時代における
地方公立大学の役割」

講師 片山 善博 氏

(慶應義塾大学教授、元総務大臣、元鳥取県知事)

ていだん

・福知山公立大学開学記念鼎談

～片山善博氏×大橋一夫 福知山市市長
×富野暉一郎 福知山公立大学 副学長～

大橋市長



富野副学長

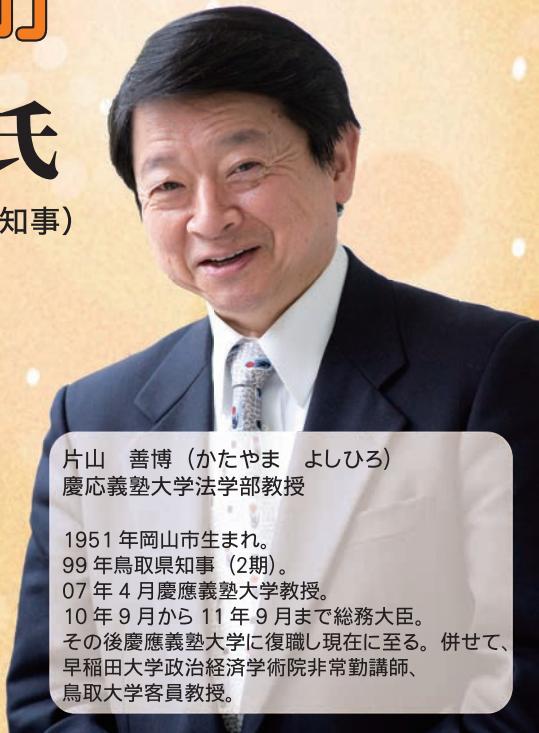
- 共催 福知山公立大学、福知山市
- 後援 京都府 (申請中)
- 会場 市民交流プラザふくちやま
3F『市民交流スペース』定員200名

 福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

○お問い合わせ
福知山公立大学 北近畿地域連携センター
〒 620-0886 京都府福知山市字堀 3370

平成28年 9月10日(土)
午後2時30分～4時20分

入場料 無料



片山 善博 (かたやま よしひろ)
慶應義塾大学法学部教授

1951年岡山市生まれ。
99年鳥取県知事(2期)。
07年4月慶應義塾大学教授。
10年9月から11年9月まで総務大臣。
その後慶應義塾大学に復職し現在に至る。併せて、
早稲田大学政治経済学院非常勤講師、
鳥取大学客員教授。



TEL:0773-24-7151 FAX:0773-24-7170
E-mail:regional@fukuchiyama.ac.jp
<http://www.fukuchiyama.ac.jp>

開学記念連続講演会（福知山市）

地方創生時代における地方公立大学の役割

日時：平成28年9月10日

場所：市民交流プラザふくちやま

講 演（要約）

○片山氏　　御紹介いただきました片山です。本日は当地にお邪魔する機会をつくっていただきまして、ありがとうございます。

この講座は、新たに公立大学としてスタートされた福知山公立大学が、地域に支えられ、また、地域を支えるという、互いにとっていい環境をつくるには、どうすればいいかを考えるためのものだと学長から伺いました。

私も、鳥取県知事のとき、地域の知的拠点である地元大学と地元との連携、マッチングということをずっと考えておりました。その経験も踏まえて、「地方創生時代における地方公立大学の役割」と題して、お話をしたいと思います。

1. 失われつつある地域の活力を取り戻すために

地方は、今、大変な課題を抱えています。一番深刻で重要な課題は、若い人が減つて、高齢化が進行していく中で、失われつつある地域の活力をどう取り戻すかです。このためには、地域での知的拠点というものが、必ず必要です。

今、多くの自治体が地方創生に力を入れておられます。日本には1,700ほどの自治体がありますが、このままいくと、2040年には、そのうちの半分ぐらいの自治体が自治体としての体をなさなくなるのではないかという悲観的な見方もあります。そうした事態を避けるため、何とか踏ん張って頑張ろうじゃないかというのが、地方創生です。着眼は、間違っていませんし、重要なことです。しかし、やり始めてもう数年経ちますが、世の中が変わる気配はありません。

その背景として考えられるのは、この政策を、国が自分たちの目線でいわば中央集権的に主導し、それに自治体が従っている傾向にあることです。一例を申し上げますと、プレミアム付商品券です。1万円出したら1万2,000円の商品券が手に入る。その地域でしか使えないから、地域の商店街が潤うんじゃないかなという発想です。これを全国どこでもやった。私が住んでいる東京都の港区は、この5年間で人口が2割近く増えているのに、ここでもプレミアム付商品券をやっている。政府から、お金を出すからやれと言われて、やっているようです。

プレミアム付商品券は、地方創生の最大の目玉商品でやったんですけども、これは鳥取県など地方のためというよりは、アベノミクスのためにやったんだということが、だんだんわかってきました。プレミアム付商品券で物を買えば、消費は伸び、GDP（国内総生産）もふえる。しかし、消費もGDPも、鳥取県のように人口が少ないところより東京都のような大都市のほうがぐっと上がるわけです。

このように国任せにしておくと、国や中央本位のものになってしまい、地域本位ということが、抜け落ちてしまいます。

2. 地域本位で考えるとはどういうことか

地域の問題は、やっぱり地域本位で、真剣に自分たち自身で考えなきゃいけないということです。地域本位に考えるというのは、どういうことか。TPPを例に挙げましょう。太平洋を囲んで多くの国が経済連携をしましょうという協定です。わが国の多くの地方は、TPPに対してはあまり賛成ではありません。しかし、安倍政権が一生懸命進めてきているときに公然と反対するというのは、なかなか勇気のいることです。

ところが、アメリカ西海岸のシアトル市では、市議会挙げてTPP反対決議をしました。同市には航空機産業のボーイング社やマイクロソフト、コーヒーのスターバックスなどのグローバル企業の本社があり、TPPに加われば世界にビジネスネットワ

ークを拡大できるわけですが、それでも自治体独自で反対決議をしました。TPPには、関税をなくすこと以外に、いろんな制度を統一しましょうという発想があるため、加入すると自分たちの地域の地方自治がやりにくくなるからです。

ニューヨーク市議会や、カリフォルニア州のリッチモンドという市などもTPPフリーゾーン宣言をしています。たとえ国がTPPに加盟しても、うちの市は関係ないという宣言です。自治体の政策が揺らぐのではないかという懸念があるからだと思われます。

地域の問題は、自分たち本位に考えないといけないわけですが、その際、必要となってくるのが、多くの優秀な研究者や教育者がおられる、「知の拠点」としての地元の大学との連携だと思います。

3. 「知の拠点」としての地元大学の役割

私は、知事をやっていたとき、大学を活用して、地域に役立ってもらいたいなど、いつも思っていました。議員の皆さんにも議会と大学との連携ということを度々促していました。活用というとぞんざいな言い方ですけれども、地域の課題を地域本位に一緒になって考えるという姿勢が大切だと思います。日本の地方の議会は、通常は自治体職員からしか意見を聞きませんが、シアトルなどアメリカの自治体は、地元大学の先生たちが議会に出向いて、市民とともに発言します。

福知山市議会は、福知山公立大学の先生を招いて議員研修会をやられたと—お聞きしましたが、結構なことだと思います。そのほかに、例えば、最近の地方自治の課題について大学の先生から話を聞いたり、具体的な議案や条例案、あるいは予算案等について、大学の先生の知見を求めたりすることがあっていいと思います。数年前、メロンで有名な北海道の夕張市が、大きな負債を負って財政破綻をしました。自治体の人間と議員の間だけだと、こういうことになりかねません。

4. 地域と地元大学の良好な関係を築くために

私が鳥取県知事をやっていましたときに、鳥取環境大学ができました。当初は、公設民営で、今は県と市が共同して経営する公立大学になっていますが、この大学の理念は、地域と一体となって、地域の課題に取り組むというものです。目標は、ローカル人材の養成です。これは必ずしも鳥取だけのことを考えるという意味ではなく、卒業して他の地域に行ってもその地域のことを真剣に考えられる視点を持った人材を育てることです。もう一つは、地域が抱える課題を研究対象にして、解決手段を考えることです。

鳥取市には、もう一つ鳥取大学があります。ここも地域問題に取り組んでいます。「鳥取大学過疎プロジェクトチーム」というのがあります。数年前に、京都の学芸出版社から『過疎地域の戦略』という本を出版しました。交通問題をはじめ、医療問題、高齢化や過疎化への対応、地域産業振興など地域の課題についての研究成果をまとめたのですが、よく読まれています。韓国など外国にも知られており、外国から呼ばれて講演に出向く先生もいるそうです。

鳥取をフィールドに、長年にわたって地震や、鳥インフルエンザの研究に携わっておられる先生がおられ、知事をしていたときには、お世話になりました。地元を研究の対象にして、地元の課題に散り組んでおられる研究者が地域にいるということは、とても心強いことです。それを、活用しない手はない。頼らない手はありません。

地域と地元の大学との間が、いい関係で結ばれると、地域もよくなり、大学もよくなります。大学の先生たちも、地域との関係の中で、メジャーな研究者になっていく。そんな将来を目指していただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

(以上)

講演会 講師 片山 善博 氏



会場の様子



開学記念連続講演会（福知山市）

地方創生時代における地方公立大学の役割

日時：平成28年9月10日

場所：市民交流プラザふくちやま

鼎　　談（要約）

1. 基調講演を受けて

○富野氏　　進行役を務めさせていただきます、副学長の富野です。

片山先生には、大変重要な提起をしていただきました。先生のお話を受けて、市長さんと、片山先生、そして私と三者三様の立場で議論を深めていければと思います。

まず、市長さんは、片山先生のお話をどう受けとめておられますか。

○大橋氏　　国や府からお金をもらう際、その支援策が、この地域に合っているかどうかというのをしっかりと見極めないといけないと改めて感じました。福知山公立大学を北近畿、10市4町のシンクタンクとして活用して、市政に反映をしていくことや、地域の公立大学で学んだ後、地域の中での働く場の確保が必要だと思っています。

○富野氏　　大学としては、私たちの大学は、「グローカル」でありたい。ローカル（地域）にしっかりと根づいているけれども、研究レベルではグローバル、世界にも展開できる大学でありたいと思います。

○片山氏　　市長さんが、福知山だけでなく但馬のほうまで広い地域を視野に置かれているのはいいことだと思います。富野副学長さんのお話にも同感です。地域の課題をしっかりと研究し、世界の人たちにも理解できるような成果を上げる。これがまさに「グローカル」ですね。

○富野氏　　若い人たちが地方から出ていくのは全国的な傾向ですが、若者の定住について、片山先生の御意見を伺いたいと思います。

○片山氏　　5月に沖縄に行った折、一人の若者に会いました。彼は神奈川県出身の

ですが、琉球大学を出た後、沖縄で働き、結婚して住みついているんです。神奈川でも就職できたのに、なぜか。彼は、沖縄の音楽に魅せられて沖縄に住みついたそうです。つまり、沖縄という地域に若者を強力に引きつける何かがあるかということだと思います。

もう一つ、これはアメリカの例ですが、議会や教育委員会がオープンで、必ずパブリック・ヒアリングがあり、そこでは高校生でも意見が言えるんです。音楽クラブの楽器が古くなったので買ってほしいという高校生の訴えを、教育委員たちがちゃんと受けとめているのを見たことがあります。そういう地域なら自分もここで頑張ろうという気になるのではないかと思う。

○大橋氏 今年から、高校生たちもたくさん入ってもらい、地域を見詰め直して、この町の未来を考えるワークショップを始めました。出口の問題としては、企業の誘致も含めて、産業振興をしっかり頑張っていかないといけないと思っています。

2. 地域に対して地元大学がすべきことは

○富野氏 行政が自治体につくった大学として、どのようなことを地域に対してやっていくべきなのか、あるいはできるんだろうかということについて、お二人に御意見なり御提言を伺いたいと思います。

○大橋氏 この大学が、地域全体の大学なんだと思いを持っていただくために、市民の皆さんも参加できるようなまちかどキャンパスというのを、但馬や丹波でもやっていただければと思います。

○片山氏 私は、鳥取県知事のとき、地元の大学にささやかですが、地域研究のための研究費の枠を予算で設けました。それで地域のことに目を向けてくださる研究者が随分いました。もう一つ、これは私の提言ですが、議会で県外調査や外国調査が必要なときには、調査を地元大学の先生に依頼したらいいと思います。学者ですから、

真面目に研究され、いい成果を出されると思います。

○富野氏 ありがとうございます。

この大学はできてまだ半年、来年には定員が 120 人に増えます。現在は 58 名で、まだまだ十分力が発揮できない状態ですが、既に安い単価で講義を聴講していただいたり、議会や市とは、協力について話し合うなど動いております。また、今年度には北近畿地域連携センターの改修が完了し、ワークショップの場も誕生し、地域の皆さんとともに動いていけるようになります。

最後に、片山先生、そして大橋市長さんに、改めて感謝の拍手をお願いします。

どうもありがとうございました。

(以上)

鼎談（左から富野 噴一郎 副学長、片山 善博 氏、大橋 一夫 福知山市長）



大橋 一夫 福知山市長



第2回
与謝野町

地域のための福知山公立大学に期待するもの ～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 与謝野町

10月15日(土) 13:30~16:00

基調
講演

デザインマネジメントによるまちづくり
～みえるまちをつくる～

講師

田子 學 氏

(株式会社エムテド代表取締役／与謝野町クリエイティブディレクター)

入場料無料
定員200名



田子 學 Manabu Tago
株式会社エムテド代表取締役
与謝野町クリエイティブディレクター

プロフィール
東京造形大学II類デザインマネジメント卒。
広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでを
トータルにデザインする「デザインマネジメント」で、
社会に向けた新しい価値創造を実践している。
2015年より京都府与謝野町クリエイティブディレクター。
iF PRODUCT DESIGN AWARD 2013 (GOLD)、
red dot design award best of the best 2013、他受賞作品多数。
TEDxTokyo2013 Design Speaker。

慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授・東京造形大学デザイン学科特任教授・東京藝術大学デザイン科非常勤講師・熊本大学大学院自然科学研究科客員教授

福知山公立大学開学記念鼎談 ていだん



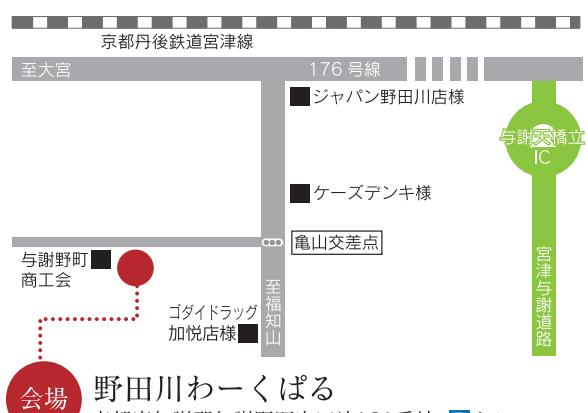
田子 學
クリエイティブディレクター

杉岡秀紀
福知山公立大学准教授

× 山添藤真
与謝野町長

昭和 56 年：京都府生まれ
平成 12 年：京都府立宮津高等学校卒業
平成 16 年：フランス国立建築大学パリ・マラケ校入学
平成 18 年：フランス国立社会科学高等研究院パリ校入学
平成 20 年：フランス国立社会科学高等研究院パリ校 2 年次修了
平成 22 年：与謝野町議会議員
平成 26 年：与謝野町長

お問合せ
福知山公立大学 北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886
FAX.0773-24-7170 mail:regional@fukuchiyama.ac.jp
■共催／福知山公立大学・与謝野町・京都北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府



開学記念連続講演会（与謝野町）

「デザインマネジメントによるまちづくり ～みえるまちをつくる～」

日時：平成28年10月15日

場所：野川わくばる

講演（要約）

○田子氏 皆さん、こんにちは。与謝野町のクリエイティブディレクターを去年の5月からさせていただいております田子と申します。

僕は、エムテドというデザイン会社の代表をしていますが、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の特任教授などいろんな大学の教壇にも立っています。僕が取り組んでいるのは、デザインの中でも「デザイン・マネジメント」という少し特殊な分野です。

1. デザイン・マネジメントとは

デザインというと、絵か、形か、色なのかという話になりがちですが、実は全然違うんです。ちょっと前までは、デザインを辞書で調べると「意匠」と出ていましたが、新しい辞書では設計と載っていることが多いです。そして、その後に「人間の行為をよりよい形で叶えるための計画」という言葉が添えられています。

美術や芸術、アートと呼ばれるものは、一個人の情熱で動かすものですが、デザインというのは1人ではどうにもなりません。パートナーがいたり、指導してくれる人がいたり、いろんな人達と共に、計画を作っていくことなんです。ワンピースを作るのではなく、全体の中で足りないところにワンピースを入れることによって全体が動くシステムを考える。システムとして大きく回ったとき、必ず興味を持つ人がいます。この興味が関心に繋がり、それがお金に変わる可能性もあります。これが、実は

ブランドというものなんです。

2. クリエイティブディレクターとしての与謝野町における取組み

僕が与謝野町で去年からいただいている仕事である「与謝野町のブランディング」というのは、ブランドづくりという形だけの話ではありません。どうやってこの地域を動かしていくのか、どうやって皆さんの力を一緒に育てていけるのか、どうしたら地元の資源をいい価値に育てられるのかということを考えることが与謝野町におけるブランディングであり、その実現に向けて今一生懸命取組んでいます。

僕は、行政と仕事をするのは、あまり好きではなかったのですが、若い山添町長に会ったとき、「格好いいまちにしませんか」と言われて驚きました。彼だったら、もしかしたら変わるかもしれないと思いました。

与謝野町をつぶさに見て回り、この町の暮らしの根底にあるいいものをたくさん見つけました。海がある、大きな川がある、そして山もある。実はこれらが揃っているような地域は少ないんです。しかも住むところがいっぱいある。織物をやっていて着る物も作られている。そして、美味しい野菜、美味しい米も作っている。おまけにこの地域でとれたおからや米ぬか、魚のあらなどで肥料までつくっている。これは実にすごいトレーサビリティーの価値なんです。トレーサビリティーというのは、誰が作って、どのように運営しているかというのが見える化できるということ、つまり安心・安全が見えるという話なんです。大量生産、大量消費の現在では、作り手の顔が全く見えません。モノは安いけれども安心感がない。だからこそ、安心・安全が見えるということは、素晴らしいことです。これこそ、この町のブランドの礎となるものだと思います。

皆さん、このいいところを強調しませんか。美味しいお米や野菜の作り手の顔が、お客様に直にわかれば、価値が高まり、高く売れるかもしれない。こんな発想から去年11月、テストマーケットを開催しました。最初は誰が来るんだろうと、どきど

きだったんですが、蓋を開けてみたら地域全体からいろんなお客様が来て盛況でした。

そこでふるまわれたのは有名シェフが作ったものではなくて、この町の主婦達の家庭料理です。地域を活性化するためには、ここで暮らす人達自身が、地元のいいものを積極的に多くの人に見てもらうべきだと思います。

3. 「みえるまち」にするために

阿蘇海だって、そうです。ご存知のように、阿蘇海では、今でこそサップ、シーカヤックというマリンスポーツ体験事業をされていますが、僕がこの町を最初に訪れたとき、天橋立が見える素晴らしいロケーションなのに、海で遊んでいる人が誰一人いませんでした。柵がしてあって、「入るな、危険」と書いてある。せっかく素晴らしい海があるのに蓋をしてしまっているんです。

ヨーロッパでは、町並みの中に、海面すれすれの道路とかあるんですけども、柵などはしていません。景観を損なうし、危険であることは見ればわかります。ここをいかに価値ある土地にするか、誇れる場所にするかということを考えたら、入ってはいけないなんて書いてはいけないと思うんです。

海を綺麗にして、みんなで海に入りませんかと呼びかけたら、まさにこういうことをやりたかったんだと、地域のアウトドアショップの方が手を挙げられ事業化につながろうとしています。

今、「みえるまち」というコンセプトサイトを立ち上げて、いろんな発信をしていますが、皆さんも一人一人が、自分の町の良さというのを自覚して、町を訪れた人に「どう、うちの町、いいでしょう」というふうに一言かけてもらいたいんです。

それから、時代に流されるのではなくて、今まで起きていたことは、正しかったのかということを、今一度、問い合わせほしいと思います。そういう姿勢で、この与謝野町の海や山、畑、織物など地元の資源を見直していただきたいです。

そして、あらゆることをしっかりと適正に編集するならば、世界に誇れる、与謝野町のまちづくり、ものづくりが完成するんじゃないかなというふうに思っております。
御清聴ありがとうございました。

(以上)

会場の様子



開学記念連続講演会（与謝野町）

「デザインマネジメントによるまちづくり ～みえるまちをつくる～」

日時：平成28年10月15日

場所：野川わくばる

鼎 談（要約）

○杉岡准教授 本日進行を務めさせていただきます杉岡と申します。私は、昨年度から1年弱、「まち・ひと・しごと創生有識者会議」で、お手伝いをさせていただきました。また、与謝野町の新たな総合計画を策定するお手伝いも仰せつかり、与謝野町に関わっております。

1. 山添町長と田子氏の出会い

○杉岡准教授 山添藤真町長を初めて見る方もおられますので、まず、山添町長に簡単に自己紹介をしていただき、田子さんとの出会いや印象をお聞かせください。

○山添町長 山添でございます。本日は、福知山公立大学の皆様方により、講演会を主催をしていただき、心から感謝を申し上げます。私達、与謝野町民にとりまして、福知山公立大学の新たなるスタートは、未来を感じさせるものであり、今後、大学が地域に愛され、地域に発展をもたらす機関としてあり続けることを心から願っております。

私は、現在34歳ですが、与謝野町に帰ってきたときは、28歳でした。当時、フランスで学業に専念しておりましたが、この地域でものづくりをされていらっしゃる方々が、新たな販路の開拓先としてヨーロッパに来られた折、通訳のお手伝いをさせていただいたのが、この地域に帰ろうと思ったきっかけでした。そのときに地域の抱える課題についての認識を深め、政治であれば、地域の皆さんのがんの幸福に貢献できる職

業ではないかと政治の道に進みました。

田子さんには、町長に就任して2カ月余りたった2015年7月4日にお会いしました。この与謝野町には、お米や織物などすばらしい素材を作り得る力はあるけれども、それに付加価値をつけ、販路を開拓をしていくノウハウが乏しいのではないかと思ったのが、田子さんにコンタクトするきっかけでした。

私は、大学で建築学を学びましたが、建築というのはデザイン行為であり、田子さんが提唱しておられるデザインという定義、デザインマネジメントという役割についても非常に共感ができました。田子さんは、全幅の信頼を置ける人材であると思っております。

2. 「みえるまちをつくる」とは

○杉岡准教授 田子さんのお話の中に「格好いいまち」という話題がありましたが、田子さんが、1年半前に与謝野町に来られてから、「格好いいまち度」は何点ぐらい上がったと思われますか。

○田子氏 何点かはわからないですけれども、1年経たずに「みえるまち」というコンセプトを作り出し、少なくとも半年ぐらいで事業化して、町を動かすための会社ができるなど非常に速いスピードで動いていることは、僕としてはすごくいいと思います。

○杉岡准教授 田子さんの講演のタイトルに、「みえるまちをつくる」とあります
が、これは誰に対してみえるまちをつくるんでしょう。町長、いかがでしょうか。

○山添町長 第一義的には住民の皆さん方にとってみえるまちをつくっていくということだろうと思っています。第二義的には外部とのコミュニケーションによって必要になってくることでもあるのかなとも思っています。そういう意味では、町内、町外に対してみえるまちをつくっていくということが大きな方向性になるんだろうと思っています。もう一つ、自分自身にとってのみえるまちということもあるんだろう

なと思います。

○杉岡准教授 クリエイティブディレクターとして、田子さんのお考えをはいかがでしよう。

○田子氏 皆さんは、意外に自分の足元が見えていなかったと思います。自分達のこの土地というのを、もう一度見詰め直して、それをちゃんとみえる化すれば、おそらく自分達の地元の価値というのに気づきます。価値を与える前に自分たちの価値をちゃんと見ることによって、与える価値を正当評価してもらう。そういう順番かなと思ってます。

3. 「みえるまち」の実現のために

○杉岡准教授 このみえるまち政策を進めていくための、今一番の課題は何でしょうか。

○田子氏 やはり、個人の意識だと思います。一人一人が、自分がこの町に対して何ができるんだろうとアクションが起こせるところまでこの町を知ることが必要で、それがわかった瞬間にいろんなことが展開して変わっていくような気がします。

○山添町長 私も田子さんのお考えと同じで、住民自身が自分の町をより深く知る、理解するということが重要だと思います。与謝野町は、 100 km^2 ございますが、海地域にはツバキ、野田川地域にはツツジ、岩滝地域にはアジサイと花一つ取り上げても多様なものあります。そして、その背景には住民の皆さん方の過去からの思いの連鎖があります。

そういう一つ一つを紐解いていき、体感をしていく、こういったことを積み重ねていくことが非常に重要ではないかと思いますし、それが最終的には「みえるまち」の理解であったり、実現に向けての一歩につながっていくんだろうと思っています。

○杉岡准教授 ありがとうございます。教育学者のジョン・デューイの言葉に「体験による学びに勝るものはない」とありますが、体感、体験をしてみないと、この

「みえるまち」の価値はわからないと思います。ありがとうございました。

(以上)